

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q80 我が国における男女共同参画の取り組みの進展が未だ十分でない要因の一つとして、社会全体において、アンコンシャス・バイアスが存在しているからと言われています。アンコンシャス・バイアスとはどのようなことか教えてください。

A80 アンコンシャス・バイアスとは日本語で「無意識の偏ったモノの見方」のことです。他にも「無意識の思い込み」「無意識の偏見」「無意識のバイアス」等と表現されることもあります。

世界経済フォーラムが2021年3月、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数（Gender Gap Index:GGI）の発表（世界経済フォーラムが2006年から毎年公表）を見ると、日本は先進国の中で最低レベルで、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN 諸国より低い結果となっています。順位は156か国中120位、前年は153か国中121位でした。前年値は1つ上りましたが毎年下がっています。これは各国がジェンダー平等に向けた努力を加速している中で日本が遅れを取っている要因の一つが、アンコンシャス・バイアスが存在しているからと言われています。

1 アンコンシャス・バイアスの具体的な事例をあげてみます。

日常のあらゆる場面で起きています。例えば、次のような例が挙げられます。これらはほんの一例ですが、アンコンシャス・バイアスは、日常や職場にあふれています。

- 血液型をきいて、相手の性格を想像することがある
- 性別、世代、学歴などで、相手を見ることがある
- “親が単身赴任中です”と聞くと、まずは「父親」を思い浮かべる（母親は思い浮かばない）
- 「性別」で任せる仕事や、役割を決めていることがある
- 男性から育児や介護休暇の申請があると、「奥さんは？」と咄嗟に思う
- 子育て中の女性に、転勤を伴う仕事の打診はしないほうがいいと思う

2 個々人が持っているアンコンシャス・バイアスはそれ自体が問題ではありません。

アンコンシャス・バイアスは誰にでもあって、あること自体が問題というわけではありません。過去の経験や、見聞きしたことに影響を受けて、自然に培われていくため、アンコンシャス・バイアスそのものに良し悪しはありません。しかし、アンコンシャス・バイアスに気づかずにいると、そこから生まれた言動が、知らず知らずのうちに、相手を傷つけたり、キャリアに影響をおよぼしたり、自分自身の可能性を狭めてしまう等、様々な影響があるため、注意が必要です。

「親が単身赴任中です」と聞くと、まずは「父親」を思い浮かべる」を事例に考えてみましょう。

「まずは、父親を思い浮かべる」ということ自体に、良し悪しはありません。ただし、「単身赴任という働き方を選択するのは、普通、父親だ」というアンコンシャス・バイアスに気づかずに、単身赴任の母親に対して「え？母親なのに単身赴任？お子さん、かわいそうね…」といった言動が、母親や、家族を傷つけることがあるかもしれません。また、性別で任せる仕事を決めつけてしまい、成長やキャリアに影響を及ぼすこともあるかもしれません。

3 アンコンシャス・バイアスは解消できます。

例えば、「子育て中の女性は、普通、長期出張は無理だ」、「この仕事は、たいていの男性には無理だ」といったように、自分の決めつけや押しつけの言動に気づいたなら、「これは、私のアンコンシャス・バイアスかも？」と疑ってみてください。頭ごなしに決めつけないこと、ひとりひとりと対話をしてみることで、相手を尊重する心の姿勢を持つことが、解消につながります。アンコンシャス・バイアスからの言動には、「普通そうだ」「こうあるべきだ」と言った、決めつけや、押しつけをしないことです。

資料出所 令和3年 内閣府男女共同参画局 5月号